

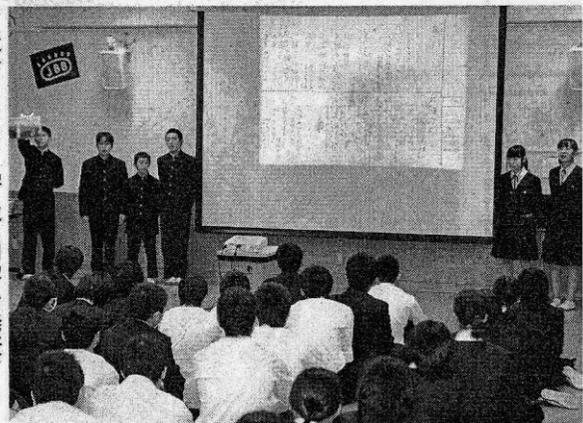


# 造船科

## 造船業って面白い

### 葉山中(津野)2年生 集中学習

【須崎】日本の産業を支える造船について集中的に学ぶ全10回の「ものづくり体験講座」が高岡郡津野町白石丙の葉山中学校で開かれ、28日に最終日を迎えた。2年生27人は約2カ月間、工場を見学したり、船員の講演を聴いたり。その成果を壁新聞にして発表し、「何かを作る仕事を」「整備士になりたい」と将来の夢も膨らませた。  
(山本 仁)



造船について学んだ内容を発表する生徒たち(津野町の葉山中)

### 工場見学、講演で職業観も

講座は日本中小型造船工業会(東京)が、人材確保などを目的に中四国の中学校で開いており、県内では初開催。同校は、生徒の職業観を養い、進路選択に役

立ててもらおうと、須崎工業高校造船科の教員を通して授業に取り入れた。10月下旬の講座では外国航路で船長を務める大森彰さん(53)⇨千葉市⇨が講演。日本の輸出入の

とや、航海1回につき6〜9カ月も海上で生活することなどを説明した。その上で「大きい船を無事に港に着いたら達成感があるし、いろんな国の人に出会えて文化を知れる」と仕事の魅力を語った。生徒たちは他にも、高松市の造船工場で全長約200メートル、約3万7千トンの貨物船の進水式を見学したり、地元工場や須崎工業高を訪問したり。発表では5グループに分かれ、貨物船や旅客船、漁船といった多様な用途や、さびを防ぐための塗料へのこだわりなど、見聞きした内容を保護者らに紹介した。  
下元悠大君(14)は「進水式で見た大きい船に感動した。今までは関心がなかったけど、造船の仕事に就きたいと思うようになった」と笑顔で話していた。

99%以上を占める。手段では船舶輸送が

# 中学校のキャリア教育 造船科が支援!